

平成17年度北海道ブロック水産業関係試験研究推進会議
資源・海洋部会報告書

会議責任者

北海道区水産研究所長

1. 開催日時及び場所 日時：平成17年10月28日（金）13：30～17：20
場所：KKR ホテル札幌会議室

2. 出席者所属機関数及び人数 11機関26名

3. 結果の概要

議 題	結 果 の 概 要
<p>1. 報告事項</p> <p>1) 調査研究を巡る情勢</p> <p>2) 水産研究課題情報</p> <p>3) 海域情報</p>	<p>・亜寒帯漁業資源部長から、資源評価への対応状況、次期中期計画のグランドデザイン等について、また、亜寒帯海洋環境部長から、グランドデザインとモニタリング課題の位置付け等について各々報告した。中央水試から“資源評価調査の魚種系群の重点化”の中身、予算、時期について質問があり、亜寒帯漁業資源部長が回答した。また、今年度休止となった資源動向要因分析調査の復活に向け、新たな課題編成とその取りまとめ方について12月中旬頃までに開催予定の「スケトウダラ太平洋系群資源研究会」において検討することになったことを説明した。</p> <p>・道水試からは、噴火湾スケトウダラ稚魚の分布調査（室蘭）、ホッケ資源動向についての対応（稚内）、全道具毒モニタリング体制の強化（中央）等に関する報告があった。</p> <p>・さけ・ます管理センターから水研センターとの統合作業について、現在研究課題のブラッシュアップを行っている旨の報告があった。</p> <p>・亜寒帯漁業資源部長から、資源分野における道水試と北水研の課題の分析に基づいて、スケトウダラ等の資源評価や漁況予測に係わる調査研究の実施概要を報告した。また、亜寒帯海洋環境部長から、海洋分野における課題の分析に基づき、モニタリングとモデル開発の実施概要や成果・情報の発信状況等を報告した。特に、道水試の貝毒・沿岸環境モニタリングと北水研の沖合（道東、オホーツク海）モニタリングに関する情報交換を行い、今後のモニタリング戦略を図るための糧とした。</p> <p>・道立水産孵化場からカラフトマス等の研究課題情報、さけ・ます管理センターから沿岸モニタリング、耳石による系群識別等についての情報の提供があった。</p> <p>・各水試からの海域情報を北水研が取りまとめ報告した。この中で、スケトウダラ太平洋系群の卓越年級群は2000年以降発生していないこと（釧路）、オホーツク海でのニシン豊漁は耳石等から判断して北海道サハリン系群による可能性が高いこと（稚内）、来春に群来は予想されないこと（網走）が報告された。また、オホーツク海沿岸におけるアオイガイ</p>

議 題	結 果 の 概 要
<p>4) 研究会報告</p> <p>5) その他</p>	<p>やエチゼンクラゲの特異的な出現（網走）、道東のマサバ豊漁に伴う資源回復の兆しについては不明確である（釧路）等の報告があった。</p> <p>(1)「さけ・ます調査研究会」について 亜寒帯漁業資源部長により、8月に開催した本研究会の概要を説明した。また、18年度交付金プロ研提案課題「本州日本海域サクラマス資源再生プログラムの開発」の概要を報告した。</p> <p>(2)「スケトウダラ太平洋系群資源研究会」について 亜寒帯漁業資源部長により、今年度開催予定の「スケトウダラ太平洋系群資源研究会」において18年度資源動向要因分析調査に向けてスケトウダラ太平洋系群の各提案課題を精査するため、その指針となるガイドラインの作成の経緯と内容（課題選定条件）等について説明した。</p> <p>・調査船の運航について、燃油代高騰に伴って水試では4船のうち、北洋丸（稚内）の12月以降の航海が一部中止、来年度には予算が2割縮小、北水研では航海日数が今年度10月以降両船合わせて21日カット、来年度は燃油代高騰を予想して、一律今年度の74%になることが各々報告された。</p>
<p>2. 協議事項</p> <p>1) 要望事項等</p>	<p>(1)沿岸定線における今後の海洋観測のあり方とその体制等に関する水研センター本部等の意見について（中央） 以下の説明を行い、了承された。 ・17年度第2回資源動向要因・漁海況部会（10月17日開催）で報告された水研センター内での「漁海況長期予報事業の今後の展開について」のアンケート調査結果（中間取りまとめ案）として、①漁海況予報事業は継続する、②定線調査の継続方法は各ブロックで協議して欲しい、③交付金プロ研「海況予測モデル」を使った海況予測を推進する方向で検討して欲しい、等が示されたこと。 ・基礎的データの収集・確保に向けた水産庁のスタンス等及び後日漁海況部会議事録が確定した段階で改めて報告すること。 ・北水研としての当ブロックへの対応として関連情報の収集・提供と定線調査の重点化等について出来る範囲で協力していくこと。</p> <p>(2)「スケトウダラ太平洋系群資源研究会」の復活の要望（室蘭）とそれに関わる会議の持ち方について 以下の説明を行い、了承された。 ・本研究会を拡大スケトウダラ魚種別検討チーム会議（仮称）とリンクさせ12月中旬までには開催したい。 ・資源動向要因分析調査のスケトウダラ太平洋系群の課題構成（研究計画）については、まず北水研内部で検討・再構築して、11月中に17年度第2回資源動向要因・漁海況部会で採択されたガイドラインに沿っ</p>

議 題	結 果 の 概 要
<p>2) 水産研究成果情報について</p> <p>3. その他</p>	<p>て決定したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度当事業が休止となった理由として、①北水研のイニシアチブが少ない、②課題間の連携がよくとれていない、③課題の羅列であったことが挙げられ、必ずしも再委託が多いことが原因ではない。このことから、道や大学も本委託事業に加わることは可能であり、今後も関連機関との連携・協力態勢の推進を図っていく。 <p>(3) 亜寒帯海洋モニタリング研究会（仮称）の立ち上げについて</p> <p>本研究会の背景・目的や取り扱う内容等について説明を行い、本研究会の設置は了承された。なお、本研究会の進展を図るため、以下の意見等があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究会の持ち方として道主催の浮魚グループ（会議）とリンクした開催（稚内）や開催テーマ等を設定した方が良い（北水研）。 ・モニタリング予算を確保していくためには外部資金による道水試との連携協力（例えば、共同研究の実施）を進める（北水研）。 ・本研究会の立ち上げは、タイムリーであり、研究者自らの積極的取り組みが期待された（中央）。 ・その結果、亜寒帯海洋環境部長により、まず、情報・意見交換の場としてスタートし、共同研究等を視野に入れた方向性をもたせる等、関係者間でその取り組み内容や運営方法について更に議論を深めたいとの意向が示された。 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度提出された資源・海洋分野の全7課題について、各参画機関担当部長より概要説明と質問等に対する回答が行われ、全課題が成果情報として承認された。また、成果情報のチェック方法について、来年度からより十分な検討を行うため本部会構成者全員に事前に配布することを申し合わせた。 <p>本年度資源管理研修会の開催日程について連絡した（北水研）。</p>